

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372601163
法人名	有限会社 サカイケアセンター
事業所名	サカイケアセンター もみじ園
訪問調査日	平成 21 年 2 月 5 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372601163
法人名	有限会社 サカイケアセンター
事業所名	サカイケアセンター もみじ園
所在地	熊本県合志市野々島字南原5427-1 (電話) 096-348-5517

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年3月10日

## 【情報提供票より】(21年1月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 新築 1 階建て
------	---------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	9,600 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

### (4) 利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.2 歳	最低	65 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	庄嶋医院 原田歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅地にあるホームは運営推進会議を活かし地域との交流促進につなげ、ホームを中心に地域一体となって消防訓練を行い、地区開催のグランドゴルフへの招待等地域の一員として受け入れられ、ホームも“いきいきサロン”の場所提供や奉仕作業に参加する等地域活動に積極的に取り組んでいる。今年度は管理者等の入替り等新体制となり、介護計画担当者はこの1年入居者の状況確認に努め全員の介護計画を作り直し、入居者が一人で散歩に出る等主体的な日常生活やいきいきと落ち着いた毎日を過ごされる入居者等個別的な支援に取り組んでいる。入居者同士の支えあう姿が微笑ましく、理念の一つ“仲良く 楽しく”が明るくケアに当たる職員に浸透し、大家族として和やかな一日を垣間見ることが出来るホームである。運営推進会議での意見や家族からの意見にも即時対応し、職員と入居者との関係や家族との関係も構築しており、今後も職員の定着に向けた取組に期待したい。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の課題に真摯に取り組む、看護職員4名を配置しており終末期ケアにも対応できることから看取りの指針を作成したり、日常的な外出支援の強化に家族に協力を得られる等サービス向上を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は現状を見直す事で改善に繋がりたいと意欲的に取り組み、現状を振り返る反省の機会と捉えている。各項目を読み合わせし、管理者部門は管理者が担当し、その他の分野は介護計画担当者と看護師がまとめたものである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定例化している運営推進会議は、委員と全家族へ事前に議題を案内し、入居者の現状や外部評価結果報告等を行い、質疑応答がなされている。委員から積極的な意見が出され、一人で散歩する入居者用に身分証明書カードを作り毎日の散歩に持ち歩かれる等サービス向上に繋げている。“認知症の正しい理解と支援”の勉強会を採り入れたり、会議終了後入居者と昼食会を開催する等工夫した会議である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や運営推進会議・家族会を家族の意見や要望を聞く機会と捉えており、家族会では行事報告や意見交換の他、食費や水熱光費、日常生活費等も報告し透明化を図っている。家族の意見を受け、職員紹介として顔写真入りで玄関に掲示したり、近くの家族からの申し出により災害連絡網に家族も名を連ねている。昨年よりリニューアルした園便りに行事予定の掲示と退職・新人職員を掲載し家族へ周知を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会へ加入し回覧板渡し担当の入居者もおり、自治会会合への参加、2ヶ月毎に行われる奉仕活動へ入居者と一緒に参加したり、地域のグランドゴルフ大会に招待される等地域の一員として受け入れられており、地区の防災訓練に参加したり、近隣住民もまたホームの玄関先を掃除したり、野菜や花のやりとり、地域の福祉施設の夏祭りに参加する等積極的に交流している。“いきいきサロン”の場所提供や隣にある学習センターの掃除を行う等地域の一員としての活動等地域との関係強化が図られている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“個人を尊重” “地域と共に” “仲良く楽しく”3項目を基本理念に各項目を具現化して表している。地域密着型ホームとして地域住民との信頼関係の構築つとめ、入居者と職員が個々に目標をたて掲示し、実現に向け職員一丸となって、入居者個々の目標達成に真摯に取り組んでいる。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々余裕ある時間を利用したミーティングや定例会議等の機会を捉え、理念を実践しているか確認している。管理者は日々の行動等事例を通し指導し、理念を玄関に掲げていたが、職員への意識付けに新たにリビングにも掲げている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入し、回覧板渡し担当の入居者や、自治会会合への参加、2ヶ月毎に行われる奉仕活動へ入居者と一緒に参加したり、地域のグランドゴルフ大会に招待される等地域の一員として受け入れられている。ホームも地域の一員として“いきいきサロン”の場所提供や隣にある学習センターの掃除を行っている。地区の防災訓練に参加したり、近隣住民もまたホームの玄関先を掃除したり、地域の福祉施設の夏祭りに参加する等積極的に交流しており、地域との関係強化が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は現状を見直す事で改善に繋がりたいと意欲的に取り組み、現状を振り返り反省の機会となったとのことである。各項目を読み合わせし、管理者部門は管理者が担当し、その他の分野は介護計画担当者と看護師がまとめたものである。昨年度の課題では看護職員4名を配置しており終末期ケアにも対応できることから看取りの指針を作成したり、日常的な外出支援の強化に家族に協力を得られる等サービス向上に反映させている。管理者は更に自己判断シートを作成し職員の評価に取り組む意向である。	○	管理者は評価を前向きに捉え、職員のための自己判断シートを作成する意向であるが、外部評価の自己評価項目も職員の教育ツールの一環や職員のケアチェックになるものと思われる。全職員で自己評価に取り組み、評価結果も全職員で検討いただきたい。
に	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例化している運営推進会議は、委員と全家族へ事前に議題を案内し、入居者の現状や外部評価結果報告等を行い、質疑応答がなされている。委員から積極的な意見が出され、一人で散歩する入居者用に身分証明書カードを作り毎日の散歩に持ち歩かれる等サービス向上に繋がっている。“認知症の正しい理解と支援”の勉強会を採り入れたり、会議終了後入居者と昼食会を開催する等工夫した会議である。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席や困難事例・疑問点等行政へ出向き意見交換をしたり、監査も受けている。生活保護受給者の受入れもあり、町の担当者と連携を図りながら入居者を支援し、社会福祉協議会や地域包括センターが開催する研修会に参加し、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に近況報告を行い、家族の希望により金銭も預かっており、個別の金銭出収帳を作成し家族に報告している。入居者の心身の変化に応じ随時電話連絡により家族との共有化・安心につなげ、昨年よりリニューアルした園便りに行事予定の掲示と退職・新人職員を掲載し家族へ周知を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが利用は無く家族の訪問時に意見や要望を何でも話してもらおうようお願いしており、家族も気軽に申し出られている。ホーム内外の苦情相談窓口と担当者を掲示し、運営推進会議や家族会も意見や要望を出されている。家族会では行事報告や意見交換の他、食費や水熱光費、日常生活費等も報告しており、透明化を図っていることが窺われる。家族の意見を受け、職員紹介として顔写真入りで玄関に掲示したり、近くの家族からの申し出により災害連絡網に家族も名を連ねている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は離職により管理者・介護計画担当者・介護職員等の入れ替わりがある。運営者は離職防止に職員の悩みや不満の相談を受けるなどコミュニケーションに努め、利用者のダメージを最小限に防ぐ努力をしている。職員間で何でも話し合う等意思疎通も良く、仲良く明るくケアに当たっており、定着されることが期待できる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会で年4回行われるブロック研修会やケアマネジャー更新研修、認知症介護実務者研修等に積極的に参加している。ホーム内では月1回の定例会議を開催しているが、今年度は日々のケアの充実に時間をとられ、内部研修の機会は少なかつたとのことである。	○	今年度は入居者の身体機能低下や高齢化に伴い転倒防止等に重点が置かれ、職員の寄り添い・見守りにより、最近ではひやりはっとも皆無であり安心した生活であると聞き取りより確認できた。今後も事故等に対応するため、職員の意識向上を図る意向であり、研修計画をたてホーム内での勉強会の開催に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の支部会の会議や研修会に参加し、意見交換や情報交換を行っている。個人的に相談しあうグループホームもあり、ネットワークも出来てきている。近隣のホームと毎月交流をもち、情報交換の機会を持つことも話題に上っているが実現には至っていない。	○	職員も他のホームの取組み状況を見たり、相互交流により個々がレベルアップに努めたいとの強い希望がある。今後ホーム同士の職員交流が期待される。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	長く入居されている方が多く、入居者と職員との関係は良好で、入居者同士も家族や親子のような関係であり、仲睦まじく生活されて、落ち着いた生活であることが垣間見れた。帰宅願望には家族との電話で落ち着いてもらうなど家族の協力を得たり、家族と相談しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の人生経験を活かし、畑仕事や料理への参加、事務職であった入居者は事務仕事(切手貼り・スタンプ押し等)日常生活の中に得意分野を発揮してもらったり、たまには団子作り等職員が教えてもらう場面もある。入居者と職員お互いが思いやりをもって支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、個々の思いや希望を聞くよう努力しているが、意思表示される入居者は少なく、表情やしぐさ等で推察しながら本人本位になるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新介護計画担当者となり、全ての入居者の介護計画を再作成している。プラン作成時、本人・家族・職員が話し合い、課題を分析し、本人の希望に沿うよう本人の言葉は発せられるとおりに話し言葉で記載し、家族に説明し同意を得ている。	○	更にホームに入居されて長い入居者が多く、再度アセスメントを取り直すことも検討いただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の申送りや毎月のミーティングでの話し合いにより全職員の共有化を図り、職員でケア方針を検討し、随時現状に合った支援に繋げようと努めている。かかりつけ医からのアドバイスもあり、ケアの統一が図られているが、プランの見直しは行っていないが、新たに全員分を作り直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問診療による口腔ケア24時間連絡可能の協力医院の確保、また職員の的確な健康管理によりインスリンを投与しながらホームでの生活を支援している。中学生のナイスライの受入れや“いきいきサロン”の場所提供等も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を変えることなく、定期受診は家族、緊急を要する場合はホーム職員が同行している。病状の変化等医師の説明等が必要な場合には医療情報の適切な指示の観点や家族との情報共有のため、家族と看護職員が受診支援を行い、家族の了解により訪問歯科を採り入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期に向け、ホームの方針を説明している。看護師4名を配置しており、終末期ケア事例は無いが、病状悪化に訪問看護や往診により支えた事例がある。重度化へと進む中で家族と協議を重ねることや見取りに関する勉強会等の必要性を認識している。	○	今後予測される終末期にむけ、家族と話し合いを重ねていただきたい。職員の最期まで支えたいとの意識も高く、看護師4名の配置により家族の希望に応えるに十分な体制であり今後の期待できる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への声かけや腰を折って目線での会話・トイレ誘導等から入居者の誇りやプライバシーへ配慮した支援であることが確認できた。職員が尊厳ということに十分に配慮し明るくケアに当たっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほとんどの入居者はホームでの生活が長く、自分の生活リズムができており、一人ひとりのペースで生活されている。自分のタイムスケジュールで一人で散歩したり、洗濯物の確認にベランダに何度も足を運ばれる入居者、居室で読書される入居者等それぞれが思い思いに過ごされている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好き嫌いや健康上食べられない食材を把握し、食べたいものを聞きとり献立を立て、一緒に料理に取り組んでいる。エプロン姿で調理へ参加される入居者、全員の配膳担当入居者(全入居者の湯飲みの識別もされていた)、車椅子でも下膳される入居者、食器拭担当や挨拶係等役割分担し、入居者がその日に収穫した野菜が食卓に上り、それも一つの話題として会話も進んでいる。職員も介助しながら、食事をともにし、野菜作りから収穫、たくあん漬け等入居者の出番が活かされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックにより入浴の不可を見極め、毎日午後の時間に入浴を支援している。入居者の希望により支援しており、週3～4回の入浴がほとんどのようであるが、チェック表をもとに間隔が空かないよう時には職員が声かけを行い、納得の上で入浴を楽しんでもらうよう支援している。時には外出を兼ね系列のデイサービスの温泉入浴に出かけている。		

### (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・洗濯では干したり乾き具合の確認・取りいれ・たたみと一連の流れを入居者が自主的に行ったり、新聞取りやエプロンがけで調理に参加する等一人ひとりの生活歴や得意分野を把握し発揮できるよう支援している。移動図書館を利用して毎回数冊を借りて居室で読みふける入居者、ラジオ体操やボール遊び・トランプやビデオ鑑賞・塗り絵等日常生活が画一化しないように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その天候により散歩や買物への同行、3時半から1時間は散歩時間と決め自分の時計で活動する入居者や一人で散歩に出かける入居者、希望によりドライブに出かけたり、季節に応じ計画した外出や芝居見学、家族との旅行等戸外へ出かけるよう支援している。		

### (4) 安心と安全を支える支援

26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠のないケアの意義を理解し、日中は玄関や裏口等施錠は無く自由な出入りである。一人で散歩される姿もあったが、「いってきます」「ただいま」と職員に声かけされていた。職員も常に入居者の所在確認に努めており、不穏時には買物と一緒に出かけたり、散歩に出たり、ベランダで日光浴をしたりと出入りの多いホームである。		
----	----	--	---	--	--



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの隣に消化栓があり、地域住民一体となって消防署立会いで消化栓の確認や消火器の使用等の訓練を行い、市の総合防災訓練(地震発生時対応)に参加したり、自主訓練として夜間通報訓練により有事に備えている。近くの家族からも災害連絡網の一員としての申し出もあり、有事に駆けつける体制が出来ている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を観察し詳細な記録とし偏りが無いように支援している。嗜好による別メニューや食欲減退時には好みの果物、糖尿病の入居者にはご飯量を計測したり、お粥食・きざみ・とろみを付ける等一人ひとりの状態に応じるための努力が見られた。水分も毎日1,500CCを目安に適時支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングダイニング・廊下には入居者の作品や写真を掲示し、室内も明るく、和室には掘りごたつもあり寛ぎの場となっている。南側のベランダは陽ざしが射し込み、広がる芝の畑や遠景を楽しむことができる。換気も適切に行っており異臭もなく、喫煙所も設けている。夏場の朝顔やひょうたんて緑のカーテンを作り、ひょうたんは作品として玄関先に飾られ、ホームの周辺も季節の花や野菜畑が季節感を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームで用意しているが、使い慣れた物の必要性を家族に説明し、居室のレイアウトも家族と相談ながら本人が居心地良く過ごすよう工夫している。自宅の自室から洋服ダンスや整理ダンス・仏壇・位牌・遺影等全て持込み、仏壇には花を上げられる入居者もおられ、自宅での生活に近い居室もある。ホームのベッドも個々の状況に応じ、本人の了解のもと入替えている。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	サカイケアセンターもみじ園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県合志市野々島字南原5427-1
記入者名 (管理者)	酒井 美重子
記入日	平成 21年 1月 23日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『個人を尊重』『地域と共に』『仲良く楽しく』の理念を掲げ、利用者一人一人がその人らしい生活が送れ、近所の人に挨拶をしたり、地域での行事に参加したりして、地域の人たちの理解を深め、職員も本当の家族みたいに接し、毎日笑いの耐えない楽しく、穏やかな生活が送れるよう心掛けています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、玄関とリビングのいつも目に付く所に掲示し、つねに実践に向けている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を、具体的に説明したことはないが、運営推進会議や家族会などの議題の中でそれなりの理解は出来ていると思うが、まだまだ地域の多くの人たちまでは浸透していないと思う。	○ 家族や地域の人たちに改めて詳しく理念について説明した事がないので、まずは、今度の会合や、定期のたよりの発行の際、説明をしようと思っている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に挨拶を交わしたり、回覧板の受け渡しの時に世間話をしたり、収穫した野菜や花をあげたり、頂いたり、又、近隣の方が、時折ホームの玄関先の草や枯葉を掃除してくださったりと、気軽に声掛けするように努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、自治会にも加入し、必ず自治会の会合や行事等、地域の活動には参加するようにしている。	○ 老人会に参加できていないので、今後の課題として老人会に参加できるパイプ作りが必要だと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣は、ほとんどが新興住宅地であり、高齢者が少なく子供夫婦と同居されている家庭が多いが、近くにある市営住宅には、高齢者の一人暮らしの方もおられるようなので何か役に立つような事がないか話し合い取り組んでいきたいと思っている。	○	パンフレットを配布し、認知症についての正しい知識や、もし認知症になったらなど、具体的な内容で説明や、血圧を測ったりと、ちょっとした健康診断や健康体操を行い、定期的に気軽に足を運んでもらえるような呼びかけが必要
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今まで気づかなかったことに改めて目を向ける事が出来たり、改めて考え直したり、改善に取り組む事が出来る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た要望はできる事から取り組んでいるとてもいいアイデアもあってすぐ実行に移した事で家族から喜ばれた事もあった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時々是用事で出かけていくが、何か問題や疑問点があれば、出向いて意見や指導を求めている。	○	まだいろんな面で、わからない事や疑問に思うことがあったりするのでもう少し話し合いの場が必要かなと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や地域包括センターの研修会に参加している、必要があればすぐに活用して支援する。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あまり研修の機会がなかったが、職員には、周知し、理解もできている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族から利用者さんの様子や不安や行動は詳しく、納得がいくまで話を聞き、こちらからも理解が得られるまで説明し、お互いによく話しをした上で行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や意見箱を設けているし、家族などの面会があったときは個人の部屋で話をする機会がある。 (以前、意見箱の中に利用者から『私は○○がきらいです』と食べ物之苦情があった)	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた時は、必ず最近の様子を報告するようにしている 又、園便りを発行しているので、それでも園の全体的なことは、説明しているし、金銭面の報告も個別に行っている。	○ 園便りの発行も頻繁に行い、内容も、もっと充実したものになりたいと思っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や意見箱を設けている、また、運営推進会議や家族会の中でも意見を言える機会がある 園の相談者だけでなく市役所や国保連合会のパンフレットもあり、相談できるようにしてある。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度は必ず職員とのミーティングを行い、意見を聞いて取り入れている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が勤務表を作成し、無理な勤務がないように必要な時間に必要な人員を確保している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の悩みや不満の相談にのり、勤務状況に無理がないかどうかなど検討してなるべく職員の希望にあった勤務体制を整えて離職が最小限に抑えられるように努力している。 しかし、仮に辞めたとしても利用者へのダメージはないと思われる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会で年4回行われるブロック研修には、職員のレベルに応じて参加している。又実務者研修やケアマネージャー研修等の外部研修を受け、研修内容は、他の職員にも報告して周知徹底を図っている。外部の研修は職員を交代で決め、積極的に参加するようにしている。	○ 日々の勤務に追われて、今までなかなか内部研修をする機会が少なかったと思うのでこれからは、もっと多く勉強会の機会を持つようにしたいと思う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿、菊池地区のブロック研修には必ず参加するようにしている、又近隣のグループホームと、これから先、月に1度の交流をもち、情報交換の場を持つと話はしているがまだ1度も実践されていないのが現状である。	○ ブロック研修会や、同業者との交流の場に、管理者だけでなく、職員も積極的に参加して、他の活動を通して学び合い、良い所を取り入れて質の向上につなげていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	普段から声をかけ、いつでも相談に乗れるよう配慮している。親睦会や社員旅行を行い、ストレス解消に努めている。時々、利用者も一緒だが、お食事会などもしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に勤務状況を把握し休みや欠勤はチェックして、仕事の内容や動きに応じて役割を決定し責任を持った仕事を担当してもらっている。	○ 園内用の自己評価表を作成して、定期的に、自己評価又は職員同志で評価し合い、お互いが向上し合えるようにしたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話しやすい雰囲気作りをし、本人が話される些細な事にも傾聴し、必ず受け答えをするようにして、絶対無視したりせず、本人が納得のいく説明をして信頼関係を築いています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けたときからいつでも相談に乗れるような体制でいます。本人さんの生い立ちから現在までの事を詳しく聞き、今現在一番困っている事、不安な事、これからの事などいろんな話を聞いて、相談者が、安心して帰られるようにしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を詳しく聞き、本当にグループホームでなければならないのか判断して、もし他のサービスでも良い場合は、紹介します。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず職員が目宅などに伺って行って本人と会って話しをして、説明が必要であれば行い情報を得て、その後本人さんに訪問してもらい、他の入居者さんと一緒に食事をしたりして雰囲気に慣れてもらうようにしている。初めのうちは、家族にも頻繁に来てもらい家族との時間も大切にして、少しずつ慣れてもらえるようにし、不安な気持ちにならないように家族の協力や支援も必要になります。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの長い人生経験を生かしてもらい、畑仕事、食事作り、事務的な仕事の得意な方に職員が手伝い、草取りから収穫まで行い、収穫した野菜を使って、材料選びから味付けまでの食事の用意を 時々はおやつや饅頭や団子作りまで一人でこなされ、職員が、教えてもらうこともある。又、収穫の喜びも一緒に分かち合えることもあり、お互いに支えあう関係を	○	まだまだできることを見つけ出して、入居者さんと職員と喜びを分かち合えたらと思う。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来園されたときに本人さんの近況を報告して、今まであまり出来なかった事が出来た時のことを話して一緒に喜んだり、できなくなった事を一緒に考えてみたり、来園された事の喜びを一緒に共有しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	なるべく家族との関係をが遠いものにならないように、園の行事案内を出して参加してもらい食事を一緒にしたり、レクリエーションなどで遊んでもらったりして、コミュニケーションをとっている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が電話をかけたいと希望されるなら家族はもちろん、知り合いの方にも、都合に合わせて電話をかけたり、訪問したりしている。本人が希望されて可能な限りは希望をかなえてあげたいと努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格も十分に把握した上でリビングの席順も配慮し、なるべくみんなで過ごす時間を多くして、自分の部屋にこもらないようにしている。リビングで過ごす時間をみんなで作作り、利用者同志の会話がはずむように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了する時はほとんどが入院されるケースが多く、その場合定期的に職員が交代でお見舞いに行っている。もし、亡くなられた時は、葬儀に必ず出席するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく希望に副えるように努めて話いるが、日によって希望が変化していることもあり、希望に副えないこともある。そういう場合は、説明して納得してもらおう。困難な場合は、本人本位に検討し対応しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に聞き取りを行い、家族から今まで利用したサービスから情報を聞いている。居宅支援事業所と連絡して、連帯して把握するようにしている。	で	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録やバイタルチェック、申し送りなどの活用と、一緒に過ごすなかでその日の心身状況を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成前に本人・家族・スタッフと話し合い意見や希望を聞くようにしている。課題分析を行い、本人らしい生活が出来るように介護計画の作成、本人の希望に副えるように勤めて計画の作成を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別記録を見ながら、ミーティング等での意見を元に日々の生活の変化を把握し、本人・家族と話し合いながら計画の見直しにつなげるようにしている。またかかり付けの医師から助言を受けることもある。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録より情報を共有している。また実践や介護計画の見直しに十分役に立っていると思う。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	歯科の訪問診療による口腔ケアを行い、定期的に口の中の状態を把握する事が出来、必要であれば治療も可能である。また、ターミナルケアや病院への通院が困難になった場合には、訪問看護や往診による診察も要望があれば可能な体制があり、柔軟な支援をしている。	○	現在行っている事以外にも、いろんな場合に備えるために他にやれるようなことを調べて、要望に対応できるような柔軟な支援作りをしていきたいと思う。
、				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用は十分とはいえないが、現在では、民生委員さんのいきいきサロンや外出の際のボランティア・消防署による避難訓練や消火訓練・中学校からの福祉職場体験などを実施して、協力や支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	前任のケアマネジャーと変わって日が浅いため他のケアマネジャーや事業所との交流はほとんどなく、まだサービスの利用を話し合うまでには至っていない	○	今後は、他の事業所と交流を深め、必要性に応じた対応ができるように体制を整えていきたいと思う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については、まだ対象者と思えるような事がないので必要性がないが、これから先必要があれば包括センターや社協に相談したいと思っている。 サービスの内容や苦情などで包括センターと連絡を取るとはあった	○	権利擁護についての研修会があり、参加して内容は、把握できている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、以前からのかかりつけ医の受診と家族と決め、定期の受診は本人と家族で、それ以外に緊急を要する場合は園の方から、または、病状の変化などで医師との説明が必要な場合は、本人・家族職員(看護職)と受診するなどの病状に合わせた対応を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>常に認知症の程度を職員が観察しながら、医師の受診が必要と判断した場合は、本人、家族、職員(看護職)と一緒に受診に行き、医師の診断を聞くようにしている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>毎朝、看護職員と一緒にバイタルチェック、一般状態の観察を行い異常時の早期発見に努めている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>部屋の確保を行い、定期的に病院に出向いて、病院と治療過程を相談しながら、今後のことについて家族とも話し合いをする。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の際、看取りに関する指針を作成し説明をしている。以前に訪問看護や往診による介護が必要とされた方がおられ、もし必要性があれば家族と相談し、職員とも相談の上決定したい。</p>	<p>○ この先だんだんと入居者が重度化するであろうと予測されるのは間違いない、そのための備えが必要になってくる。看取りに関する勉強会や研修会に参加する事が重要</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>看取りに関する指針は作成したが、実際に支援に取り組んだことはないが、今後のために備えて勉強会や研修会に参加が必要</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>前例で1件あり、家の近くのグループホームに移られたが、特に問題なくスムーズに移られ、家族の家が近いため頻繁に行き来できるようになって喜ばれていた。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	食事の用意は、得意な方がおられるので、出来られるときは味付けまで任せてもいい
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間はオムツを使用しているが、日中は排泄チェック表により、個人の個人の排泄パターンを把握する事が出来、トイレ誘導にて排泄を行う。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に合わせた入浴で、希望があればいつでも入れるようにしてある。入浴チェック表で管理しているが、あまり拒否が続く方には、健康面と衛生上、職員が誘い本人の納得上入浴を促しているが強く拒否されることはない。時々温泉にも出かけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのくつろぎ方が違うので、こたつやソファでくつろいで、昼ねをする人、ベランダに出て外の景色を眺めながら日向ぼっこをする人、部屋で横になってラジオを聴いたり本を読んだりする人、体操や散歩を楽しんだりとそれぞれ自由に休息してもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑仕事で野菜作り、収穫した野菜で食事作り、近くの店まで買い物、散歩などの個人の以前の経験や趣味を利用して、出来る事を出来るだけ行えるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人には自由に使えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候によっては、散歩に出かけたり、食材の買い物に行ったり、希望があれば車でドライブがてら目的地まで出かけたりしてなるべく希望に副えるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見に出かけたり、芝居を見に出かけたり、カラオケや、家族旅行で家族と一緒に阿蘇や天草まで出かけることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に家族や知り合いに掛ける事が出来るし、手紙も自由に書く事が出来て年賀状も希望があれば書いてもらうようにしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつも会えない人が来られるととても喜ばれるので特に時間も限られていないのでいつでも自由に来てもらえるようにしている。会う場所も特に決めていないので個人の部屋やリビングで自由にくつろいでもらっている。	○	よく来られる家族とそうでない家族があり、もっと頻繁に来てもらえると思えるだろうと思う。園でも、いろんな催しをする際に案内をするがなかなか参加が少ない。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体束縛をしないケアを正しく理解しており全職員とも取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、まったく鍵を掛けることなく自由に出入りできるようにしている。昼間は買い物や散歩に出かけたり、畑に出たり、ベランダで過ごしたりと、何かと出入りする事が多い。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間はほとんどリビングで過ごされる事が多いので必ず職員がいるしいつも中の扉は開放してあるので人数の把握ができる。職員も把握にはいつも心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要な場所には危険な物も置いてあるが、職員が取り扱いに注意している。共通して必要なものはなくならないようにしまっている。個人の部屋には危険な物は必要ないので置いてない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤薬は勉強会を開いて知識を得ている。マニュアルを作って、事故防止に努めている。もし、起こった場合の連絡網も作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	カンファレンスの際、急変や事故に備えての対応の仕方を話している消防署で行われる心肺蘇生法の訓練に職員も参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署から来てもらい避難訓練や消火訓練を行って、避難や誘導の仕方などの指導を受けている。また、地域の災害訓練にも参加して、避難場所の確認や非難後の対策などの確認も行っている。自治会が行う火災訓練にも参加し消火栓の確認や消火器を使つての消火訓練に参加して、地域の人の協力を得られるように呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が来園された際に、起こり得るであろうリスクについて詳しく説明し家族と対応策について話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の介護記録やバイタルチェック、申し送りなどを読み、顔色や様子を見ながら、いつもと違う異変に気づいたら、ようすを見ながらマニュアルに従い連絡を取り病院に連れていくべきか対応を検討する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、看護職員が個別に1回分ずつまとめ、名前を明記した表に1日分だけの朝、昼、夕と仕分けして、必ず2名の職員が立会いのもと本人に手渡して誤薬のないように服用しているが、職員全員が、詳しい薬の目的や副作用まで理解するまでには至っていない。症状が悪化傾向にあり、薬の服用が変わった際には、職員全員に周知し、症状の利用者一人ひとりの便秘状況は把握できており、また、原因や及ぼす影響も利用者さんの様子からうかがえる。そのため、日頃から、食事に工夫し繊維食物を多く取り入れたり、飲み物の種類や量を考え行っている。また、じっとしている事が多い利用者には、廊下を歩き回るように声を掛けている。なるべく薬に頼らないように心掛けている	○	薬についての勉強会を開いて、全職員が薬についての知識を高め、薬に対する危険性も詳しく調べ、正しい理解に努めなければならない。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者一人ひとりの便秘状況は把握できており、また、原因や及ぼす影響も利用者さんの様子からうかがえる。そのため、日頃から、食事に工夫し繊維食物を多く取り入れたり、飲み物の種類や量を考え行っている。また、じっとしている事が多い利用者には、廊下を歩き回るように声を掛けている。なるべく薬に頼らないように心掛けている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には、必ず歯磨きを行っている。歯磨きが困難な場合は、うがいをするようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を観察し、詳細に記録している。好き嫌いがあり、どうしても食事の量が少ない人には、別メニューで作ることもある。利用者の状態や力によってはお粥や刻み食にしている。 水分補給は10時、3時、入浴後には必ず行い、補給量をチェックしている。それ以外にも水分は自由に取れるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの実行,特に外出後は念入りに行う.感染症に関するマニュアル作成	○	全職員が,もっと詳しい知識を持って、一丸となって取り組んでいかなければならない。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は夜間消毒液につけて衛生管理を行っている。 食材は、週に2回近くの店より新鮮な物を配達してもらい、魚類はその日に配達、野菜は園で育てた取れたてを使い、利用者と店まで新し物を買に行くこともある。新鮮で安全な食材には、気をくばっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、ごく一般の家庭と間違うほどで、誰もが自由に入出入りできるような施設という感じがしない作りになってる。広い庭には花壇や畑があり、年中花や野菜が植えてある。いつでも気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはゆつくり座つて外の景色を眺めたり、腰を下ろして靴を履く、脱ぎのためのソファを置き、広くて長い廊下を進むとみんなが集まるリビングがある。畳の空間もあり掘こたつやソファを置いて自由にくつろぐ事が出来る。全部屋が外の日ざしが入るようになっており、光がまぶしい所には、カーテンを付けている。 玄関やリビングには季節の花をいつも飾るよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃はリビングで過ごされる事が多いが、横のこたつの間で2人ほどで話しをされているのを良く見かける。また、ある人は、ベランダに職員を誘って外の景色を眺めながら日向ぼっこをするのがお気に入りだ。またある人は、玄関先の椅子で、誰かの帰りを待ったり、来客を待ちわびたり、といろいろな思いで、自分の居場所を見つけて過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるよう 工夫をしている	ベッドは園のほうで用意してあるが、他の物は自由に好きな ものを持ち込む事が出来る。家族と相談して使いやすいよう に配置してある		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	定期的に空気の入れ替えを行い、温度調整は、温度計を持 ち管理し、冬は加湿器も利用している。利用者の着ている服 によっても温度調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	室内はバリアフリーで車椅子で移動できる。廊下、トイレ、浴 室、居間必要な所にはすべて手すりが設置され、自立した生 活が送れるようにしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	利用者それぞれに、わかること、できることが違うので職員が 正しく理解して優しく見守り、たとえ混乱や失敗があっても、 冷静に静かに、やさしく接する事が必要。	○	利用者それぞれに、わかること、できることが違うので職員 が正しく理解して優しく見守り、たとえ混乱や失敗があつて も、冷静に静かに、やさしく接する事が必要。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭には、四季折々の花を植えて花が咲き感動し、畑には季 節の野菜を育てて収穫の喜びを味わい、ベランダでは、外の 景色を眺めながら日向ぼっこをして自然を楽しみ、天気の良い 日には、庭での食事をおいしく頂く。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いつも静かで落ち着いた環境の中にあるグループホームなので、この環境を生かして、利用者と一緒に花を植えたり野菜を育てたりして感動や喜びを、共に分かち合い、ゆっくり、のんびりと時を過ごして生きていけたらと思います。今現在看護職員が4名おり、看護面でも充実しており、家族の方にも安心していただけたらと思います。また、食事面では、畑を広くしたことで新鮮で安心な野菜や信頼できる店から安全な食品を届けてもらって職員も常においしいものをと献立にも気を配り努力しています。